

# みやざきバイオマスリサイクル株式会社（MBR） における2号機鶏糞バイオマス発電事業について

2023年12月

株式会社鹿児島銀行

地域支援部 原口 健



**原口 健** ハラグチ ケン

鹿児島銀行 地域支援部  
経営コンサルティング室長

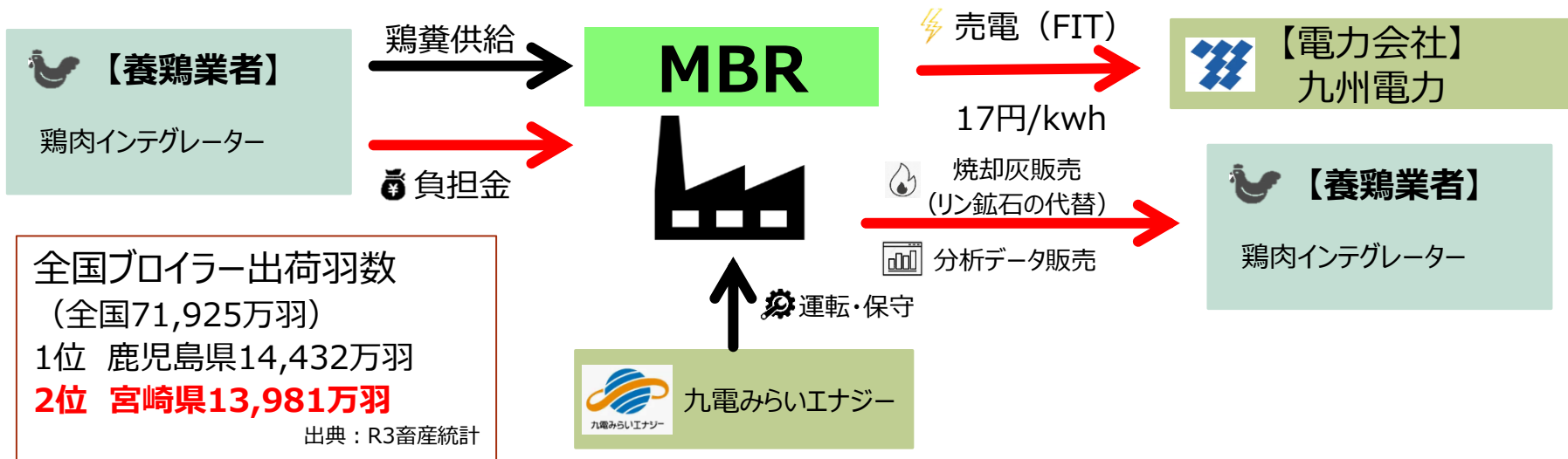
## 略歴

- 1999年 鹿児島銀行入行
- 2011年 営業支援部企業取引推進グループ
- 2018年 福岡支店 支店次長
- 2019年 出水中央支店 支店次長
- 2021年 地域支援部ソリューショングループ 主任調査役
- 2022年 地域支援部ファイナンスグループ 主任調査役
- 2023年 現職

事業者	みやざきバイオマスリサイクル株式会社（以下「MBR」）
代表者	山下 壽
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南4621-1
設立日	2003年5月26日
資本金	1億円
出資者	九電みらいエナジー(株) (農法)宮崎バイオマス利用組合 (農法)児湯食鳥宮崎生産者組合 宮崎環境保全農業協同組合 (株)児湯食鳥 日本ホワイトファーム(株) (株)ウェルファムフーズ (有)山下商事



- 既設1号機鶏糞バイオマス発電所を廃炉し、2号機を新設するファイナンス
- 既設1号機は2005年より稼動開始し、これまで順調な実績
- 一方、運転開始17年が経過、FIT買取期限が2025年に迫っている状況
- 今後も鶏糞処理が必要とされ、安定した鶏糞処理施設が求められている



## 宮崎県ブロイラー排泄物排出量の約50%超をMBRにて処理

### 廃炉の場合

再利用・処分の難しさに直面するリスク

サーキュラエコノミーへの影響大

## 2号機発電所の概要

名称	1号機	2号機(本件)
鶏糞焼却量	132,000トン/年(Max440トン/日)	132,000トン/年
発電機出力	9,000kw	9,500kw
売電	2005/5月～※RPS法(平均8円10銭) 2012/12月～FIT法(2025/9月まで <b>17円</b> )	2026年4月～FIT法( <b>17円</b> )
営業運転開始	2005年5月27日	2026年4月予定
出力抑制	出力抑制不可設備として認定	出力抑制不可設備として認定予定
<b>総事業費</b>	<b>約50億円</b>	<b>約105億円</b>

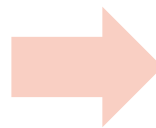
1号機同様の設備導入にあたり、発電規模、売電価格は同等であるものの、**建設コストの増加により総事業費は約2倍**

**相応規模の借入金調達が必要**

## (論点)

◆ 返済財源捻出のためには、売上UPがマスト

既設1号機	構成
【売上】売電	77
【売上】負担金	19
【売上】分析データ販売	3
【売上】焼却灰販売	1
【1号機売上計】	100



## (対応策)

◆ ブロイラー会社が支払う「負担金」を増額し、CFマイナス分を調整

新設2号機	構成
【売上】売電	77
【売上】負担金	39
【売上】分析データ販売	3
【売上】焼却灰販売	1
【2号機売上計】	120

**既設1号機比1.2倍の売上UPを実現することで返済財源を捻出**

## (論点)

### ◆ 事業費約2倍による相応規模の借入調達

鹿児島銀や宮崎銀など、「鶏糞」発電に融資 九電系が建設



ニッキン ONLINE

2023.03.08 20:05 無料会員

鹿児島銀行や宮崎銀行など5金融機関が3月8日、鶏糞を使ったバイオマス発電事業に対する融資契約を結んだと発表した。九州電力グループの「みやざきバイオマスリサイクル」社（宮崎県川南町）が第2発電所を新設する方針を固めており、建設などに必要な資金を融資する。

融資を決めたのは2行のほか、日本政策金融公庫と宮崎太陽銀行、宮崎県信用農業協同組合連合会。総事業費は100億円規模。融資額は非公表。鹿児島銀が中心になって参加を呼びかけ、各金融機関がそれぞれ審査し相対で融資する。鹿児島銀が「鶏糞発電」事業に資金供給するのは初めて。

建設する第2発電所は2024年6月に着工し、26年4月の営業運転開始を目指す。想定する送電電力量は年6000万キロワットで、一般家庭約2万世帯の年間消費量を賅える。同社が05年に稼働させ、国内最大規模の第1発電所と同規模になる。電力は固定価格買い取り（FIT）制度を利用し、九電にすべて売却する。

発電燃料は宮崎県内では出る鶏糞を使う。鶏糞を処理する際の熱で蒸気を発生させ、タービンを回して発電する。焼却後に残った灰は「リン酸」を含んでおり、肥料として再利用し一般の農家に販売する。

宮崎県は肉用のブロイラー飼育数が国内有数。一方、鶏糞が大量に発生する課題がある。建設する第2発電所は年13万トン以上の鶏糞を燃料として使う。その規模は県内で発生する鶏糞量の約半分に相当する。

鶏糞は野外に積まれるなど不適切な方法で放置されれば悪臭の原因や水質汚染を引き起こす恐れがある。国は1999年に家畜排せつ法を制定し、04年11月に本格適用している。鶏糞を使った発電は宮崎県の主要産業「畜産業」の持続性を確保することにもつながる。

## (対応策)

### ◆ FAとして地元金融機関を取りまとめ

#### 実際に行った支援内容

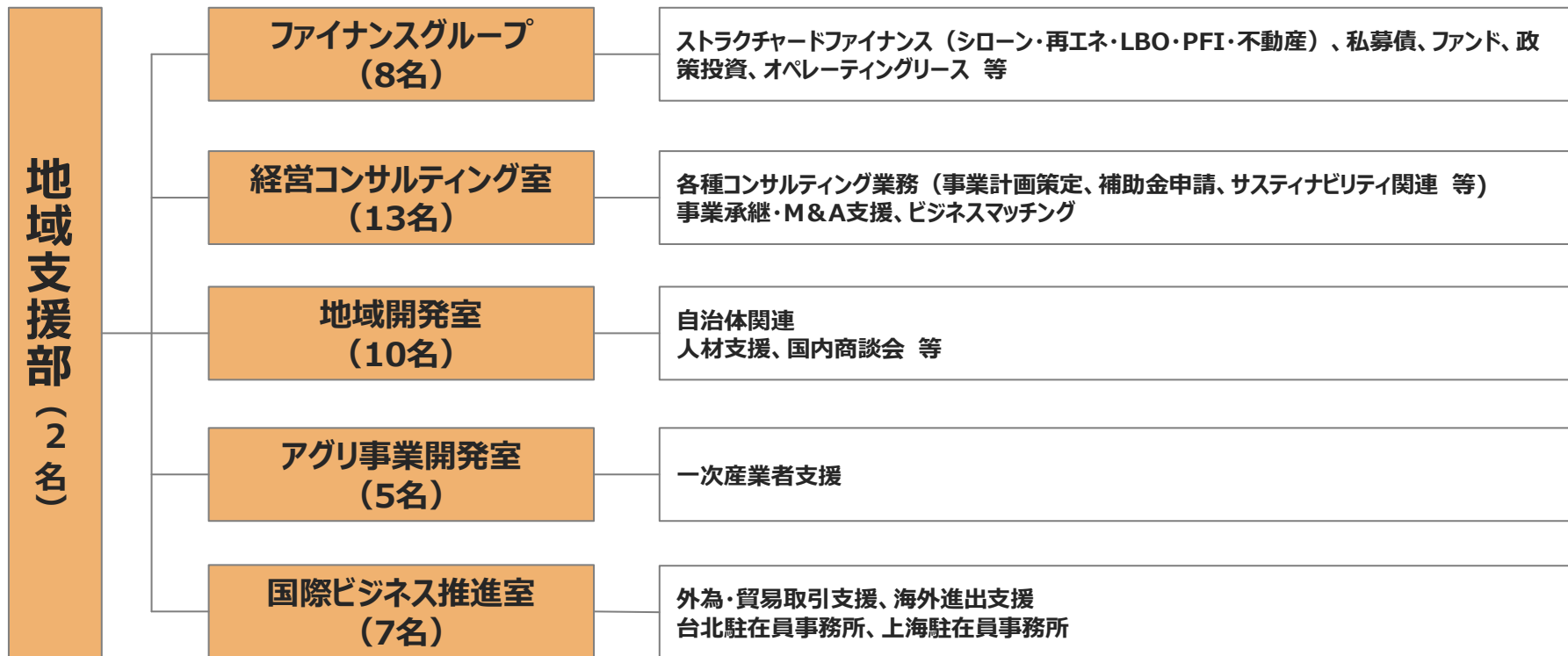
- ✓ 事業計画策定支援
  - ・インテグレーターへのヒアリング
  - ・業界事情調査（プロイラー生産量、鶏糞処理量等の情報取り纏め）
  - ・3表モデリングとシミュレーション
  - ・上記を踏まえた負担金水準
- ✓ 事業実施に当たっての統合的サポート
  - ・工事契約、保険等のポイント（除：法的アドバイス）
  - ・会計・税務面でのポイント確認to土業
- ✓ 関係者調整のサポート
  - ・銀行間調整（制度融資（農政局提出資料の作成）、民間行招聘・交渉）
  - ・株主間調整のサポート（当行作成の事業計画をベースに会社が説明）
  - ・PR支援（→台湾他、各種問い合わせあり。他行のIR資料にも掲載）
- ✓ その他
  - ・事業会社担当者に対する各種相談事項の対応と壁打ち相手
  - ・飲み会（各種相談、愚痴対応）



# 地域金融機関が「川上」から関与し、ビジネスを理解することで 地域のサーキュラエコノミーの発展につながる



**地域のサーキュラエコノミーの発展**



◆ お問い合わせ先

株式会社鹿児島銀行地域支援部

住所：鹿児島市金生町6-6 TEL：099-239-9720 E-mailアドレス：c.shienbu@ml.kagin.co.jp



Kagoshima Bank

はじめよう、あたらしいコト。

鹿児島銀行